

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立基里小学校
1 前年度 評価結果の概要	○様々な学習問題に対し、既習の知識や技能等をいかして解決する力を伸ばすためには、主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善が必要である。 ○業務改善・教職員の働き方改革を推進するための方法を幅広く考え、実践していく必要がある。
2 学校教育目標	「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 「誇りと生きる力を身に付け、心身ともに豊かな基里っ子」の育成 ～ みんなにとって気持ちのよい学校にしよう ～
3 本年度の重点目標	① 校内研究を軸にした授業改善に努めるとともに、家庭と連携し、児童の学力向上を図る。 ② いじめや不登校などの問題について、個に応じた指導を丁寧に行い、みんなにとって気持ちのよい学校をめざす。 ③ PTAや学校運営協議会と連携し、教職員の業務改善・働き方改革の推進を行う。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・授業改善 ・家庭学習の徹底	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立つと回答する教師90%以上 ○学校評価アンケートによる家庭学習の達成率90%以上	・「スキルタイム」「もくもくタイム」の充実 ・少人数指導・TTIによる指導の充実 ・授業作りステップ1・2・3の活用 ・家庭学習学習シートを用いた家庭学習の振り返り	A	・チェックシートを活用し、授業作りステップ1・2・3を意識した授業作りを行った。 ・毎週木曜日の朝の時間にスキルタイムを行っている。 ・マイプランを印刷し、目付付ところに掲示することで成果指標を意識した授業作りを行っている。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、90%以上だった。 ・授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立つと回答する教師は、100%だった。 ・学校評価アンケートによる家庭学習の達成率88%だった。
	○(学校独自重点取組・任意) ・学びをいかに育む ・読書の推進	○学力状況調査(算数科)・「OPテスト」(算数科)における思考力・判断力・表現力等の正答率を算平均値と上位。 ○算数の市販テストの思考力・判断力・表現力等の正答率の平均80%以上 ○年間貸出冊数の学級平均80冊以上	・対話的な学びを取り入れた授業の充実 ・児童が数学的活動を楽しむための課題設定の工夫 ・読書の推進	A	・全職員、課題設定を工夫し、対話的な学びを取り入れた授業を行い、研究会を実施した。 ・11月末現在の貸出冊数平均は、78冊である。 引き続き、読書の推進を行っている。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は、90%以上だった。 ・授業作りステップ1・2・3のチェックシートを授業力向上に役立つと回答する教師は、100%だった。 ・学校評価アンケートによる家庭学習の達成率88%だった。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師85%以上 ○アンケートにおいて、「困っている友達がいたら助けたり、友達と嫌がることをしたりしない」と答えた児童が80%以上	・特別の題材「道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・「友だちを」「さんで呼ぶように、思いやり心を持たせる」など、道徳教育を行い、各学級のなかよし宣言を話し合ったり、一人一人、人権宣言を行ったり、人権標語を書いたりすること、人権について考える機会を持つ。	A	・「特別の題材「道徳」の研修を深め、教科書や教材の活用方法を工夫し、日頃の授業研究に努める。 ・「友だちを」「さんで呼ぶように、思いやり心を持たせる」など、道徳教育を行い、各学級のなかよし宣言を話し合ったり、一人一人、人権宣言を行ったり、人権標語を書いたりすること、人権について考える機会を持つ。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした教師は、85%だった。 ・道徳に関するアンケートにおいて「困っている友達がいたら助けたり、友達と嫌がることをしたりしない」と答えた児童は、91.5%だった。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校評価アンケートで、「学校が楽しい」と答える児童90%以上。 ○いじめの防止、事業への対応について、組織的な対応ができていると答える教員80%以上。	・生活アンケートの回答を確認し、いじめにつながる事案について対応する。 ・いじめの認知・発覚に対する対応マニュアルの確認・周知を行う。 ・いじめを認知・発覚した場合、ケース会議を開き、早急に対応する。	A	・毎月生活アンケート及びいじめアンケートを確認し、担任から管理職への報告や相談を徹底することができた。 ・早期対応を共通理解し、児童への聞き取りやケース会議を迅速に行うことができ、児童の心のケアと経過観察、保護者対応を行っている。	A	・学校評価アンケートにおいて、「学校が楽しい」と答えた児童は84.6%だった。 ・生活アンケートの回答やO-Uアンケートを通して人間関係作りが図れている教師は95%だった。 ・職員間で、共通認識及び理解のもと、早急かつ組織的な対応を続ける。
	○特別支援教育の充実	○特別支援学級在籍児童、通級指導教室利用児童、診断を有する児童について、個別の支援計画・指導計画の作成100% ○職員研修の充実	・新入生は、保護者と話し合い支援計画を作成する。 ・本校の職員に向けた特別支援学級の授業公開を年1回行う。	A	・新入生を含む支援学級全児童について保護者と話し合い、個別の支援計画・指導計画を作成した。 ・職員研修として支援学級の公開授業を1月27日に行い、・休休みに外部講師を招き、特別支援教育に関する職員研修会を行った。	A	・支援学級全児童について個別の支援計画・指導計画についてその実践と評価を保護者と共有し次年度へ引き継ぐことを確認した。 ・支援学級の公開授業を1月27日に行い、支援学級の運営や就学の流れなどについての職員研修を行った。 ・支援学級児童について次年度に向けての個人懇談を行った。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施する。 ・各取組とのためあやや振り返りのためにキャリアパスポートを活用する。 ・目標を持って中学校に進学するための交流体験や、各種体験活動においては、児童生徒の主体的な見通しと振り返りを行う活動を仕組む。	B	・全職員が、校内研究をはじめ、各種研修を通して、児童の資質・能力を育むために研修を積んでいる。 ・コロナ禍で制限がある中で、交流・体験活動を可能な限り行っている。引き続きあやや見通しをもたせ、振り返りをもとにすることで、達成感や成長を感じられるようにしていく。	B	・児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動を仕組んでいる教師は87%だった。 ・学校評価アンケートにおいて、「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童88.7%、保護者64%だった。 ・来年度も、行事への取り組みと振り返り、キャリア教育や交流・体験活動を継続して行っていく。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●アンケートで、「体育や運動が楽しい」と答える児童が全学年90%以上	・体育の授業例や学習カード、がんばりカードなどを担任に紹介し、それを活用した授業を行う。 ・昼休み等の外遊びや体育館での遊びを勧め、担任も1週間1度は一緒に遊ぶよう努める。 ・体育委員会や運営委員会が学校の児童みんなと遊ぶ機会を設ける。	A	・アンケートで「体育や運動が楽しい」と答えた児童が、全ての学年で90%を超えていた。2学期の後半には、体育委員会の「基里っ子スポーツ大会」や運営委員会での「全校遊び、3学期には体育館大会もあるので、体を動かす機会を増やし、楽しいと思える学習をすすめていく」とい。 ・昼休みに児童と共に外遊びを促している担任が半数以上いるので、これからも遊ぶように働きかける。	A	・アンケートで「体育や運動が楽しい」と答えた児童が、全ての学年で90%を超えていた。
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「給食を残さず食べる」と回答する児童が全学年95%以上。	・食育に関する授業を通して、食の大切さや食の楽しさを伝える。 ・食育を実施するよう、担任への呼びかけを行う。 ・給食通帳等で、給食のよさを伝え、食育活動へ参画して、給食を残さず食べる意識を高める。	A	・給食委員会による残食チェックや呼びかけなどを行い、全学年95%以上が「自分に合った量を残さず食べる」と回答した。引き続き、給食週間などで給食の歴史や良いところを伝え、残さず食べる意識を高めていく。	A	・全学年95%以上が「自分に合った量を残さず食べる」と回答した。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ・前年度の時間外勤務時間とを比較し、働き方改革にむけた取組ができたと回答する教職員90%以上。	・教職員一人一人の意識改革を高める。(衛生委員会等を活用) ・定時退勤日実施を徹底する。 ・休暇を取得しやすい職場環境づくりを整える。	C	・前年度の時間外勤務時間とを比較し、働き方改革にむけた取組ができたと回答する教職員82%、90%には届いていないが、昨年度と比べ、全体的な退勤時刻は確実に早くなっている。 ・夏季休業中に連続した休暇を取得できるよう、行事計画を見直しことで教職員が休暇を取得しやすい環境を整えることができた。	B	・19時の退勤時刻や金曜日の定時退勤日を意識し、昨年度よりも働き方改革の意識を高めて、実践したと回答した教職員は90%。 ・年休取得日数の平均は昨年度より2日増え、夏季・冬季休業中に休暇を取得しやすいよう行事計画を立てることができた。
○残業時間の短縮	○19時まで(定時退勤日は18時)に退勤可能な職員を目指す	・更なる仕事内容の精選。 ・学年で教材を共有し、仕事の分担をする。 ・仕事の優先順位の明確化。	B	・仕事内容の精選や分担が行っているが、限られた時間内で行事や研究授業等の準備を終わらせるのは難しかった。 ・放課後の時間の使い方として、学年での話し合いを優先的に行うことができた。	B	・ほぼ全員が退勤時刻を意識し、昨年度よりも働き方改革の意識を高めて、実践している。今後も仕事内容の精選や分担を進めていく。	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・授業参観で教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年・学級・学級便り等で、教科「日本語」の授業で学習した内容を保護者に知らせる。	B	・現時点で、保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率は54%である。また、各学級1・2回程度、教科「日本語」に係る情報を公開している。 ・引き続き、教科「日本語」の授業・情報公開について呼びかけていく。	B	・授業参観が1回しか実施できなかったこともあり、授業公開学級率は54%だった。 ・教科「日本語」の授業で学習した内容を保護者に知らせるという回答した教師は77%だったが、保護者の認知度は82%から91%に上がった。
	○児童の学びと心身の充実	○保護者による学校評価アンケートで小中一貫教育に理解していることを知っているの回答を85%以上とする。 ○小中合同研修会で児童生徒理解が深まったと回答する教員90%以上とする。 ○「スポーツ大会」や地域の授業を通して、次年度や中学校につながる技能を身に付けさせることができたことと回答する教員を80%以上とする。	・授業の約案や家庭学習の手引き等を小中で実践し、授業規律の徹底と授業改善を行う。 ・書面報告やZoom研修会を取り入れながら、小中合同研修会を6回開催し、連携を密に行う。 ・生活目標に必要な技能を全学年を通して身に付けさせるために、体つくり部や学年での話し合いを行う。	A	・「小中一貫教育の取組を知り」保護者は82.6%であり、小中連携の取組を児童が家庭で話ししたり小中一貫便りやHP等で知らせたりしていることが功を奏している。 ・生徒指導や教育相談、特別支援教育担当による報告や話し合いを行い、児童生徒の理解と支援に努めている。 ・体つくり部や学年での話し合いを通して、技能を身に付けさせる授業に取り組むことができた。	B	・小中一貫教育の取組を知り、保護者は95.8%で第1回目より2%以上上昇しており、小中学校教職員の連携や教職員の意識の高まりにより、保護者への継続的な通知などによって効果を得ている。来年度も取組を継続していく。 ・コロナ禍のため、合同研修会がリモートだった。直接のコミュニケーションは取りづらかったが、可能な限り連携を取り合い、児童生徒の情報交換をすることができた。小中合同研修会で、児童理解の深まりを感じた教職員は71%であった。来年度は、教職員の意識が高まるよう、検討を図る。 ・新型コロナウイルス感染症への感染に配慮した授業内容など、体つくり部や学年で話し合い、ほとんどの行事や授業ができた。
○開かれた学校の推進	○コミュニティ・スクールの活用	○コミュニティ・スクールの活動が高まったと感じた教職員・保護者・学校運営協議会委員の回答率80%以上	・学校行事等の積極的な協力依頼(お茶会体験、運動会、交通安全教室、生活科・総合的な学習等の学習支援) ・「基里っ子見守り隊」による登下校の安全確保 ・活動についての情報公開(コミュニティ便り、HP、まちこみメール配信等)	B	・新型コロナウイルス感染症が心配される中でも、学校行事を行うための様々な取組を行っていた。今年は、学習や運動会など様々な支援も行っていった。また、(スポーツ大会)の手配し、親子の足元につけるテニスボールの準備等) ・コミュニティ・スクールの活動が高まったと感じた教職員の回答率は82%、学校運営協議会を推進していることを知っている保護者は71%、コミュニティ・スクールの活動については、引き続き、HPやまちこみメール配信等を通じて保護者への周知を図っていく必要がある。	A	・を記のような学校行事の支援に加え、学習支援として情報モラル教育の講師をコミュニティ・スクールに依頼することができた。 ・コミュニティ・スクールの活動が高まったと感じた教職員の回答率は90%、学校運営協議会を推進していることを知っている保護者は78%と、共に意識を上げることができた。コミュニティ・スクールの活動については、HPやまちこみメール配信等を通じて保護者への周知が図られたと考える。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・地域人材を活用し、キャリア教育に繋がる様々な体験活動や交流活動を工夫することで、将来に夢や目標を持ち、地域や学校を誇りに思う児童を育てる。 ・校内研究を軸にした授業力改善を行い、児童の更なる学力向上をめざす。 ・PTAや学校運営協議会との連携を図るとともに、見直しをした教育計画を基にして、積極的に業務改善を行う。働き方改革に向けて教職員の意識を高め、時間外勤務時間の削減を実現させる。 ・新型コロナウイルス感染症防止を徹底しつつ、小中学校児童生徒の交流活動や教職員の研修会等を行うなど、小中一貫教育の充実を図る。
----------------	---